

平成26年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
7月2日（水）	高津地区振興センター	19:00～20:20	40	14	54

○市側出席者

市長、政策企画局長、総務部長、秘書広報課長

2 会の概要

○開会（秘書広報課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

(1) 平成25年度の主な成果（“ネットワークの構築と活用”に関連）

平成25年度は施政方針において「人口拡大への挑戦」、「財源の効率的配分」、「ネットワークの構築と活用による産業の活性化」の3つの基本指針を掲げてのぞんだ。

成果として、「ネットワークの構築と活用の観点」から

- ①都市交流の進展…昨年4月、高槻市（姉妹都市）、若狭町とで災害時相互応援協定締結
昨年7月、川崎市と文化、スポーツ等の交流に関する覚書締結
豊中市とは空港で結ぶ友好都市連携協定を結んだ。
これにより、行政の連携から民間の連携へとつなげていきたい。また菟
・石見空港の利用促進にもつなげたい。
- ②中須東原遺跡の国史跡指定…今年3月国史跡に指定されたことも大きな進展であるが、この申請にあたり東京大学史料編纂所と島根県古代文化センターとの共同研究も大いに役に立った。これを契機に益田の歴史を活かしたまちづくりを進めていきたい。
- ③県立大学との連携協力協定…25、26年度実施しているが、益田市の地域課題を学生に実際益田に入ってもらい、研究発表し成果をまちづくりにつなげていく考えでいる。
- ④東京路線2便化…国の政策コンテストにおいて、地元利用拡大促進協議会、島根県、全日空の3者の共同提案が採択されたことによる。また近隣市町との連携も大きかった。この増便は平成26年度から2年の限定である。この2年間で利用実績を上げていかなければ、また1便に戻る事となる。運賃の格安割引制度も実施しているので、市民の皆さまには積極的な利用をお願いしたい。
- ⑤山陰自動車道の整備促進…三隅益田間は国により大きな取り組みをしていただいている。整備促進に向けた民間団体との連携（ゆうひライン女性の会、臨空ファクトリーパーク立地企業連絡会）も強固にし、一層の促進を図っていく。
- ⑥給食調理場の整備の進展…老朽化し衛生状態がよくないとされている調理場であるが、今年度から着工し、28年度当初から供用開始を予定している。
地産地消や食育を進めるため、農家、食品流通業者との連携を進め、地元の農業振興にもつなげていきたい。

(2) 平成26年度の展望

①行財政改革と平成26年度予算概要…昨年12月、新たな行財政改革指針策定

地方交付税の収入減があきらかであり、収支の均衡をとるため、様々な歳出削減を行ない、平成25年度に収支の均衡を図るというもの。平成25年度～28年度にかけて集中改革期間としてより徹底した行財政改革を進めることとしている。併せて、今後大きな事業が必要であることから形骸化した財政非常事態宣言を解除した。しかし、解除したことが益田

市の財政が豊かになったためではないので、これからも徹底した行財政改革を実施していく。

平成26年度予算については、日赤の建て替え、本庁舎の耐震化、学校給食調理場の建設、消防の緊急無線のデジタル化、災害復旧など先送りできない大きな事業があるため、予算が膨らんだ。

これは決して心配することではなく、これを踏まえ行財政改革指針を策定しており、この指針に従い実施することで将来的にも安定した運営が可能となる。

②人口拡大計画における重点課題…人口問題は国県でも大きくクローズアップされている。国では骨太方針により、2060年代において人口1億人を維持する国家目標が示された。また日本創生会議では地方では結婚適齢期の女性が流出し、人口が大幅に減少する想定が示されている。県でもはじめて人口70万人を割り込みU I ターンを増加させ、人口増を図らなくてはならないとしている。

このことから益田市では人口拡大計画を策定し、平成26年度から様々な取組みを行なって行くこととしている。

人口拡大計画では3つの要素「人口の社会増」「人口の自然増」「交流人口の拡大」にわけて施策を実施する。

実施する上で、「子育て世代に手厚く」「U I ターン大歓迎」「中山間地域を元気に」の3つの切り口に力点を置いている。

新しく行なう事業と拡充する事業について4つ紹介すると、児童医療費助成・U I ターン者応援・コンベンション等誘致・学び舎ますだ事業がある。

(2) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ①高津放課後児童クラブ施設の向上について
- ②地域自治への支援について
- ③学校給食における地元食材の活用について
- ④暮らしの便利帳での市外業者の採択について
- ⑤市内産科医の状況とクライנגルテンの現状について
- ⑥川崎市との交流の上で海の家建設について - 1
- ⑦川崎市との交流の上で海の家建設について - 2
- ⑧有効な市民との会議の実施について

○ 閉 会 （秘書広報課長）

平成26年度「市長と語りあう会」

〔会場 高津地区振興センター〕 開催日時：平成26年7月2日（水）19:00～20:20

要 望 事 項 等	回 答
<p>①高津放課後児童クラブ施設の向上について 高津放課後児童クラブの施設は、不便箇所が多いため、以前より新しい施設の建設を保護者連絡会からお願いしているが、財政難で困難とのことである。 財政難で新築が難しいのであれば、不便箇所の調査をしていただき、是正してほしい。 また現在の駐車場は危険なので、送り迎えの時間だけでも益田道路高架下の空き地の開放はできないか。</p>	<p>①放課後児童クラブを設置するためには、対応可能な施設が存在していることが条件で、市では今まで施設の整備や買い取りなどは行っていない状況である。基本的には投資して改修等を行うことは難しいことは理解して欲しい。 現状調査については、ごもったもな話であるので、早めに調査するよう指示する。 益田道路高架下の空き地は国の所有地である。駐車場として開放していただけるか、国に利用のお願いをしていく。 いずれにしても人口拡大において子育て環境は非常に重要であるので力を入れて取り組んでいきたい。</p>
<p>②地域自治への支援について 浜地区自治会館建設に向けた今後も支援をよろしくお願ひしたい。 地域魅力化計画において、自治会がすすめる上で、先進地視察の声が上がっているが、市内で先進地があれば教えて欲しい。</p>	<p>②浜自治会の皆さんから地元の自治会館建設の要望をいただいているが、自己資金を準備した上で市の支援をお願いしていただいていることは、ありがたく思っている。 また地域の取組みでよい事例の紹介とのことだが、担当の人口拡大課を通じ、事例を幅広く共有できるようにしたい。現時点で申し上げられるのは、各地域の地域魅力化応援隊の事例発表を年1回3月に実施している。一般の市民の方も参加可能なのでどんどん出席していただきたい。</p>
<p>③学校給食における地元食材の活用について 学校給食調理場が建設されるが、給食に地元産品の利用は賛成である。これには携わる者が本腰を入れて、地元農家とどう連携していくか非常に重要となる。このシステムづくりをどのようにしていくのか。給食センターは業者委託になるのではないかと思うが、強く指導して欲しい。</p>	<p>③調理場建設については、昨年大きく進んだが、学校給食においても、地産地消推進連絡会議を市だけではなく食品流通業者、生産者にも加わっていただき検討しており、内容をよくするため地元の産品、安全安心な産品で子どもたちの体そのものによい給食を作っていく考えでいる。 給食センターの運営そのものは民間委託を考えているが、委託にあたっては、食育の配慮を十分要請して、取組みが進むようにしっかりとした枠組みを作っていく。</p>
<p>④暮らしの便利帳での市外業者の採択について 人口拡大計画では人口の社会増をテーマにしているが、地元の企業が元気にならなければ上手くいかない。このたび合併10周年記念で暮らしの便利帳を発刊することとなっているが、協働事業相手が大阪の企業となっており、益田にも業者があるが、なぜ大阪の業者に決めたのか。経費は市内企業からの広告掲載費でまかなうことになっているが市外へお金が流出してしまい、益田の企業は元気がならないと思うがいかがか。</p>	<p>④暮らしの便利帳はサイネックスという企業からの提案であるが、市の持ち出しはなく、市内の事業者の広告収入、サイネックスの従来からのノウハウによって発刊することになっている。 もちろん市内業者で広告代理店業務を含め、対応可能であればお願いするのが望ましいが、これだけの内容（どういった内容でどのように見せるのか）を真似することは、難しいのではないかと思う。サイネックスは全国の自治体で取組みされており、内容に関し信頼できることから、ここからの提案を受けたという状況である。</p>

⑤市内産科医の状況とクラインガルテンの現状について

以前、益田で安心して子どもを産める状況になり話があったが、市内の産婦人科医の状況はどうなっているのか。

益田では農林水産が大事である。農地に荒地が多い現状の中でクラインガルテンの話はその後どうなったのか。

⑤産婦人科の状況は、3年くらい前に分娩制限をしたが、その後日赤の常勤、島根大学から定期的に来られる医師により、市内の分娩は何とかまかなえている。しかし理想は里帰り分娩が可能となることである。現在、県の医師確保対策室、保健所との協議を継続的に実施し、特に島根大学医学部との連携をすすめ、里帰り出産の再開に向けて協力を仰いでいる。

クラインガルテンは、予定していた開パイでは飲料水として不適であり、水道施設建設費も高額なため採算が合わず、やむなく断念した。現在はそれ以外の場所で開設できないか検討中である。散在型や空き家改修型でできないかも検討している。当初は高津川地域活性化総合特区事業として計画したが、こだわらず益田市の農業振興や高齢者の人口の拡大という面から引き続き考えていきたい。

⑥川崎市との交流の上で海の家建設について

－ 1

交流人口拡大の点で、昨年の川崎市との提携を機会に石見空港を利用した交流人口の拡大を図ることが要望である。川崎市は北海道や長野に施設を建設し、市民が利用している。益田でも海の家を空港付近の公有地に建設し、貸し出せばどうか。

⑥この提案は以前からいただいていた。実際に川崎市長と話をしたが、北海道や長野に建てた時期と今とは違っており、公共施設を建てることを抑制していると聞いた。新規の利用も見込めない中で難しいとのことであった。益田市としても一定の投資は必要となってくるから、利用者が見込めない中では厳しい状況であると感じている。

川崎市とは子供の交流以外に経済団体の交流が進みつつある。両市の商工会議所で交流が始まろうとしている。そうすると益田市にとって大きなメリットとなるだろう。市としてもスムーズに展開するよう協力していく。

⑦川崎市との交流の上で海の家建設について

－ 2

この話の実現できれば、益田市民も海の家として利用できるのではないかと。交流といっても目に見えるものがないと一般市民から納得が得られないと思う。ここ1、2年で看板だけでもいいから、益田市に海の家があるとのキャッチフレーズをPRしていくのが大事ではないか。人口拡大計画は益田市の活性化に向けて最大な効果が得られるようにしていただきたい。

人口拡大計画を26年度から実施していくが、一方で行財政改革の面からも考えないと市の行財政の運営がスムーズに運べないことが大きな課題としてある。施設建設の考えは昔と今は大きく変わっている。今は施設に係る維持管理から老朽化した際のコスト等をトータルで考慮しなければならない。今必要だからと建ててしまうと後々後悔することとなるので慎重にしなければならない。なるべく新規の施設を造らず、既存の施設の利用等の策はないかを考えていく必要がある。これを踏まえ、人口拡大をいかに効率よく、後の世代に問題が残らないようするか考えていくことが大切だと思う。

⑧有効な市民との会議の実施について

嬉しかったことをお話ししたい。高津の自治会長会でマダニの話をして市長にしたら、早速、告知端末で注意喚起をしていただいた。また高津の益田道路の推進協議会において、維持管理をしっかりとやって欲しいとお願いしたところ、早速法面の草刈りをしていただいた。今後もこうした会議が実のあるものとしていただきたい。

有難うございます。市民の皆さまからいただいた声は速やかに対応するよう努めてまいります。

